

里地里山の保全・活用の取組における課題と技術的方策等

分類	地域活性化／産品開発
手法名	ヤママユ(天蚕)を活用した産品開発と地域づくり
主体	りょうぜん天蚕の会
背景(地域の課題)	<p>里山の生物資源を用いた産品開発は、里山の管理や原材料となる生き物の飼育・生産に関する研究から商品開発と販売促進まで、様々な分野と連携しながらそれぞれのレベルに応じた取り組みを同時に行うことが必要となる。</p> <p>このため、地域の生産体制作りだけでなく、研究機関、企業、地域の技術者などとも連携することで十分な技術的基盤を確保するとともに、様々なレベルでの交流や発信活動を行うことが求められる。</p>
手法／方策の詳細	<p>かつての霊山シルク文化の伝承を行いながら、霊山における天蚕を活用した特産品開発を進め地域活性化を図る取り組みを行っている。</p> <p>飼育方法は、成長の早いエゾノキヌヤナギによる飼育を軸にクヌギ(またはナラ)を利用した混用飼育を行っている(写真1)。生産体制として天蚕飼育農家と家蚕飼育農家の契約生産を開始。</p> <p>1)天蚕繭利用による特産品づくり(写真2)</p> <p>①アクセサリー類の商品化: ブローチ、タイピン、ループタイ、根付、ピアス等、地域の技術者と連携して製造・商品化。</p> <p>②ハイブリッド天蚕絹糸による新商品の開発(写真3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福島県農業総合センター開発のハイブリッド製法の新技術特許を使用。</li> <li>・家蚕繭10粒と天蚕繭3粒の割合で繰糸し、ハイブリッド天蚕生糸を生産。</li> <li>・新素材生糸を経糸に、天蚕繭の紬糸を緯糸として生地を織り、この生地をベースに、ショール、バック、名刺入、懐紙入等を商品化。</li> </ul> <p>③りょうぜん天蚕の会ロゴマークの商品登録と純国産絹マークの認定</p> <p>2)地域特産品としての求評活動及びPR活動</p> <p>①第9回ふくしま特産品コンクール:天蚕ハイブリッド系ショールを出品し、入賞。</p> <p>②全国生涯学習見本市(フェスティバル)展示:天蚕に皇室(秋篠宮様御夫妻)の見学あり。</p> <p>③「全国シルクサミット2008 イン ふくしま」: ・ショール、バック、アクセサリー、5齢幼虫(ポット)の展示</p> <p>④NHK「ふるさと一番」生放送: ・緑のダイヤ、天蚕による地域を元気に」として放送され、全国から反響。</p> <p>⑤東京八重洲口で「ふくしま交流会展示即売会」(10月～12月):隔年開催</p> <p>⑥阿武隈急行、保原駅観光物産館で常時展示販売(伊達市観光物産協会):</p> <p>⑦横浜シルク博物館に天蚕紬織ハンドバック(新製品)を展示:天蚕糸やパンフレットも紹介</p> <p>3)天蚕育を通じた地域間交流の促進(写真4)</p> <p>①地元小中学校を対象とした親子(小学生)現地観察会、糸づくり研修会等教育的支援活動</p> <p>②全国天蚕交流セミナー(平成19年)を開催。</p> <p>③りょうぜんふるさと交流館「里山がっこう」にてまゆ玉工芸品等の商品を展示販売。</p> <p>④りょうぜん天蚕音頭での交流促進 オリジナルの作詞作曲と振り付けを行い、地域交流促進のために貢献。</p>
手法・技術的視点	<p>1)天蚕の生態に配慮した効率的・効果的な飼育方法の研究と実践 成長が早く、葉も柔らかい特性を備えたエゾノキヌヤナギを採用したり、県と連携しながら微粒子病の検査を徹底するなど、天蚕の生態に配慮しながら効率的な飼育方法を採用している点が着目される。</p> <p>2)地域の人材や組織との連携と技術活用 各種アクセサリーや工芸製品、石鹸等の商品開発において、地域の技術者や企業と連携して進めるほか、ハイブリッド糸の利活用に見られるように県内の組織・技術資源を活用しながら魅力的な商品開発のために必要な技術的基盤を確保している。</p> <p>3)天蚕特性を生かした多様な商品開発 天蚕の魅力を生かすことができる商品を楽しみながら多様なアイデアから積極的に開発し会のモチベーションを高めている。</p> <p>4)地域から全国まで様々なレベルでの交流と発信活動の実施 地域の理解を促すための地域レベルでの普及啓発活動から、販売促進につなげる全国レベルの発信活動まで、様々なレベルで機会をとらえて取り組むことで交流を活性化させている点が着目される。</p>

<p>実行プロセス・運営体制のイメージ</p>	<p><b>・主体ごとの役割</b></p> <p><b>・活動分野と連携体制</b></p>
<p>図・写真資料</p>	<p>写真1 エゾノキヌヤナギの挿し木法畑づくり      写真2 天蚕繭を用いた工芸品の数々</p> <p>写真3 ハイブリッド糸を用いたハンドバック      写真4 全国天蚕交流セミナーの開催</p>
<p>参考資料</p>	<p>平成24年度里なび研修会in新潟県パワーポイント資料(柳沼泰衛)、パンフレット「りょうぜん天蚕の会」、会報「りょうぜん天蚕の会だより」、ちらし「天蚕商品の葉」</p>